



Part 3

研究 × SDGs

「教育重視の研究大学」を理念に掲げる本学では、世界最先端の研究が幅広い分野で進められています。ここでは、「環境」「社会」「経済」におけるSDGs世界目標に密接に関わる最新の研究を紹介します。

研究紹介動画をチェック!

本学の幅広い研究を分かりやすく紹介するため、1～3分の研究紹介動画を作成しています。金沢大学公式YouTubeチャンネルをご覧ください。

ココカラ



「イノベーションは「ココカラ」始まる」をテーマに本学の多彩な研究内容を動画で紹介している「ココカラ」はこちら▶



リサーチャーズ Researcher's Voice



研究者自らが研究内容や成果を分かりやすく解説し、将来の展望を語る「Researcher's Voice」はこちら▶



ペロブスカイト太陽電池の高性能化を実現。

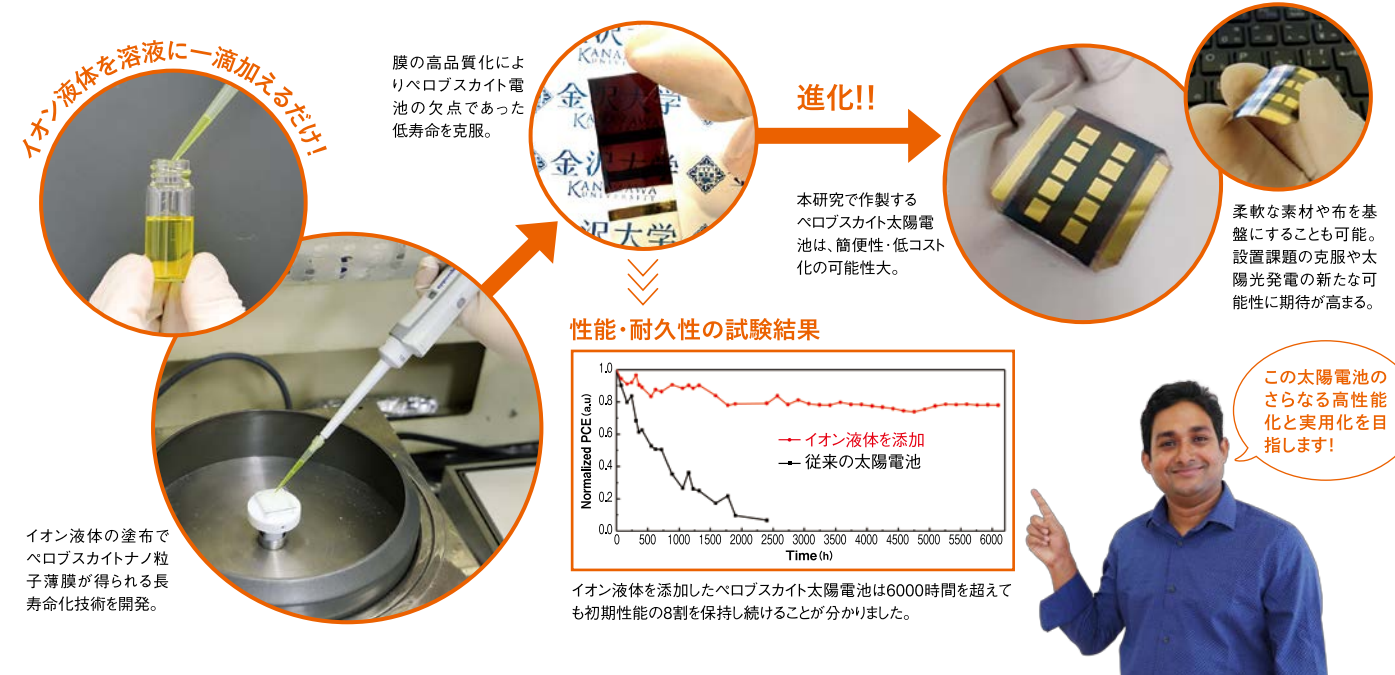


次世代太陽電池の高性能化と長寿命化の成功に世界が注目。

一般に建物の屋根などに設置するシリコン太陽電池が抱える「重い・高価格」という問題を解決する薄膜太陽電池「ペロブスカイト太陽電池」の研究に取り組んでいます。耐久性が課題のこの太陽電池にイオン液体を添加することで、性能を保持しながら6000時間超の発電に世界で初めて成功。次世代太陽電池の実用化とさらなる高性能化・低コスト化を目指しています。



ナノマテリアル研究所
シャヒドウザマン
モハマド 特任助教



植物由来のプラスチックを開発。



石油に頼らずバイオマスで生分解化させて資源を循環。

化石資源由来のプラスチックの世界の生産量はこの60年で83億tに上り、うち63億tが廃棄に。2050年には150億tが環境へ放出されることに。その一解決策として、高橋研究室では自然分解される植物由来のプラスチックの研究開発を進めています。農業廃棄物を活用した強化プラスチックや合成皮革などの高品質素材を企業との共同開発で実用化を目指します。



持続可能な水産業を能登から世界へ発信。



能登の水産業に変革を起こすオーガニック養殖技術を開発。

2019年4月、能登町に開設した「理工学域 能登海洋水産センター」で、地域の水産業の変革に向けた研究を行っています。ワクチンや抗生剤などの薬を用いないトラフグやニジマス(トラウトサーモン)のオーガニック養殖を成功させた実績を誇ります。ここで開発したオーガニック養殖技術は漁業者へ還元し、新たな「能登ブランド」を発信することで地域活性化につなげていきます。



理工研究域生命工学系
能登海洋水産センター
松原 創 教授



能登海洋水産センターは、理工学域生命工学系にある海洋生物資源コースに関連した研究施設として2019年4月、能登町に設立。

